

松本式 小論文受験勉強法

多くの帰国生入試の受験生の小論文指導をしてきた私の経験から、現地の高校在学中にやっておくべき、小論文受験対策を紹介しましょう。

1. 書かれた日本語に毎日接する

帰国生大学入試向けの「書かれた日本語」とは、日本の高校生（大学入試）レベルの、言葉（語彙）・表現・内容（特に時事問題）で書かれた日本語の文章のことです。

海外の高校生は、このレベルの日本語文章が書けません。当然です。外国で生活し、英語で学習しているのですから。

入試では、直接には左の目的④で、受験生の日本語力を見ようとします。しかし、他の目的で求められている内容も「日本語」で書かなければなりません。大学はそれを（出来れば）大学受験生レベルの日本語で書いて欲しいと望んでいます。

また、入学後の学業をサバイブしていくためにも、しっかりした日本語が書ける必要があります。

大学入試レベルの日本語の文章がどんなものか知らないと、そのレベルの言葉や表現を使った文章は書けません。まずは、日常的にそのレベルの文章に接することです。

2. 日本の時事問題の基礎知識を身につける

「最近の日本のことは知らないから」は、小論文で苦勞する高校生の言い訳です。日本の現在の社会問題についての基礎知識の欠如は、外国で生活している高校生にとっては当然です。しかし、理由③にあるように、受験生の社会を見る目の確かさを知りたい日本の大学の先生の好む出題テーマです。

「日本語の新聞を読め」は、よく聞くアドバイスです。しかし、北米の家庭で読める日刊の日本語新聞はありませんし、現地校の勉強で忙しい高校生が、全てのページに目を通すのは、現実的に不可能です。

3. 「天声人語」の書き写し

上の1・2の弱点を克服するために、日英対訳「天声人語」の日本語の文章の書き写しを強く勧めます。

天声人語は朝日新聞の朝刊1面に毎日掲載されているコラムです。約800字（原稿用紙2枚）で、最新の日本の社会の幅広い問題をテーマとして書かれています。単行本「英文対照 朝日新聞天声人語」（原書房・年4回発行）には、日本文と英訳が見開きで掲載されています。単行本の入手が困難な場合や、最新の天声人語を日本語・英語で入手したい場合は、インターネット（<http://premium.asahi.com/asahieng/>）の有料サービスも利用出来ます。

書き写しのやり方は簡単です。400字詰め原稿用紙（または20X20のマス目を印刷した用紙）に、天声人語の日本語を書き写すだけです。毎日、コラムの1日分（原稿用紙2枚）、大変ならば毎日1枚でもOKです。それだけです。

日本語の意味が分からなければ、英文を読めば簡単に理解できます。「え、こんな簡単な意味！何で、日本語はこんな難しい言い方をするの」という高校生の言葉をよく聞きます。専門用語の簡単な解説も書いてあります。

書き写しを続けると、ひらがなや漢字の字がしっかり書けるようになります。書き写しながら読んでるので、そのコラムで扱われた日本の社会知識が少しずつ頭に入ります。出てきた話題の中に、自分が興味のあるものないものがはっきりしてきます。それが、大学で何を学ぶか、何の学部・専攻に出願するかを決める時に、大いに参考になります。

文字数800字・60分が小論文試験の標準です。毎日の書き写しで、字数と時間配分になれていくことは、実践的な受験対策になります。

4. 小論文は、エッセイの書き方で！

小論文の練習は、現地校での英文エッセイを日本語で書くことから始めましょう。現地校のFive Paragraph Essay（5段落エッセイ）で学んだ、自分の意見・主張を相手に伝える文章の形式や書き方で、日本語で書けば良いのです。

日本の大学が帰国生に最も望んでいる能力は、論理的思考能力とその結果を示す論理的な文章なのです。（私自身の早稲田大学での8年間のエッセイ指導の経験から、そう断定できます。）その能力のレベルを知るために、左ページの「出題の目的」にある例題の「述べなさい」「論じなさい」は、あなたの意見とその理由付け（reasoning）を求めているのです。

日本語の作文指導では、書き方や型の具体的な指導はほとんどありません。「心に浮かんだことを素直に、自由に書きなさい」が典型的な先生の言葉です。小論文指導でも「序論・本論・結論」「起承転結」などの言葉が説明されるだけです。

これまで学んだ日本語作文の書き方は忘れて、英文エッセイの書き方で小論文を書くことが、成功の秘訣です！

私の指導経験を基にした小論文受験準備方法を紹介しました。この方法で多くの高校生が学び、帰国生受験に合格しています。現地の高校在学中に大学入試レベルの日本語を、毎日読むことにより日本語での読解力も向上し、毎日書き写すことにより日本語での表現力も確実になります。

ただし、「松本式」は、現地校でのエッセイのしっかりした勉強が基礎であることをお忘れなく。